

# 事業報告

|     |                          |      |     |
|-----|--------------------------|------|-----|
| 講座名 | 環境学習講座「竜王山の自然観察会」        |      |     |
| 日時  | 平成28年4月24日（日） 9:30～15:30 |      |     |
| 場所  | きらら交流館、本山岬、竜王山及びその周辺     | 参加者数 | 41名 |

## 1. スケジュール

|             |  |
|-------------|--|
| 9:10～9:30   | 集合、受付                                    |
| 9:30～9:35   | 開講式                                      |
| 9:45～12:15  | 野外観察「竜王山公園の山野草の観察等」<br>※自家用車で竜王山公園駐車場へ移動 |
| 12:20～13:00 | 昼食、休憩                                    |
| 13:05～14:35 | ハマセンダン・本山岬探訪<br>※自家用車で移動（2か所）            |
| 14:50～15:20 | 講座「竜王山及びその周辺の四季、自然などについて」                |
| 15:20～      | アンケート記入、解散                               |

## 2. 活動内容

午前中は、きらら交流館で、簡単なオリエンテーションを行った後、竜王山公園駐車場に移動し、山野草の観察会を行った。

午後からは、本山岬等に移動し、「くぐり岩」やハマセンダン等を観察した後、きらら交流館で本山会の嶋田紀和氏による「竜王山及びその周辺の四季、自然について」の講義等を行った。

### 【野外観察「竜王山公園の山野草の観察等」】

講師：嶋田紀和氏、柴田満幸氏（本山会）

自家用車で竜王山公園手前の駐車場へ移動し、2班に分かれて野外観察を行った。各指導者のもと、駐車場から竜王山山頂（展望台付近）まで行くコースを歩き、見られる山野草の説明等を聞きながら観察した。

観察した草花は次のとおり

- ・イヌビワ 熟すと黒くなる。  
(食すと甘い。煮詰めてジャムにすることもできる。)
- ・マンテマ ナデシコの仲間外来種。萼には粘り気のある腺毛がある
- ・ノゲシ タンポポと同じキク科。ひとつの花に見えるがいくつもの花が集まった集合体。風を利用して種子散布する風媒花である



- ・スイバ 茎部分をかじるとすっぱい味がする。風を利用して種子散布する風媒花である
- ・ブタナ 外来種。世界中で見ることができる。名前に「ナ」のつく植物は食べれる。キク科の植物は大多数の種類を食べることができる。  
※現在は海外から野菜等を輸入し、年間を通して、種類も豊富。昔は山菜を食し、季節や味の変化を感じていた。
- ・ノビル ユリ科。球根で増える。葉や球根は食べることができる。竜王山には多数自生している。通常、竜王山では植物の採取は禁じているが、ノビル、ミツバ、ツワブキ、セリは多数自生しているし、すぐ増えるので採取を容認している。
- ・スズメノエンドウ ソラマメ属のつる性の越年草で、カラスノエンドウより小さいのでスズメの名前がついた。
- ・ヒメコバンソウ コバンソウの仲間。名前にヒメがつくのは小さいという意味
- ・ウラジロチチコグサ 植物の名前でハハ（母）がつくものは多くあるが、チチ（父）がつくのは珍しい。
- ・クローバー（シロツメクサ） 昔、海外からの輸入時にクッション材（詰めもの）として日本に入ってきた。
- ・ホタルカズラ ムラサキ科。花は日光の当たる方のみが咲く。
- ・コバナタツナミソウ 海岸地帯に多い。名前は葛飾北斎の浮世絵の波が立つ感じに似ていることが由来。
- ・ノアザミ 自家受精を避けるため、花粉を盛んに出す期間は雄性期。花粉を出し終わると花柱が伸びて雌性期と、雌雄が変わる。アリ等に蜜を取られないため、花総苞は触るとべたべたした粘液がある。葉には動物等に食されないために棘がある。
- ・サイヨウシャジン ツリガネニンジンの仲間
- ・ツワブキ 海岸性植物で、名前の由来はツヤブキがなまってツワブキ
- ・ウラシマソウ サトイモ科。虫を使って受粉。性転換する植物（球根の大きさにで雌雄が決まる。小→雄 大→雌）
- ・アカネ つる性。根を使い茜染めが出来る。  
※竜王山には多く自生している。今後、取れた種を別の場所で栽培し、茜染めを商品化し、竜王山の特産品として広めていきたいとの説明があった。
- ・アマナ 別名：日本のチューリップ。葉や球根を食すと甘い
- ・ボタンクサギ 花筒は2cmと深いので大型のアゲハチョウしか蜜を吸えない。
- ・シロバナタンポポ 在来種。関西より西でのみ自生している。



- ・ルリハコベ サクラソウ科。17～8年前に竜王山で見つけた。  
オーストラリアにもある。(世界中にある。)

この時期に花が見られる植物と一緒に、この時期以外に咲く植物の群落（ウマノアシガタ、モリアザミ、ヒトリシズカ、ウバユリ等）も紹介された。特にヒトリシズカ（4月上旬に花は終わり、今回はわずかに残っている状況）は群生して多く見られるので看板も設置し、観察路も作った。また、ツルニンジン（群生地）があり、約400本の株がもみじ谷にある。

竜王山では3種類のアザミが見られ、この時期に咲くのはモリアザミとヨシノアザミで、他は春に咲くノアザミ。モリアザミは2000年よりロープを張って保護地域にしている。

竜王山には海岸性、山地性の植物が群生している。地質は緑色片岩（粘土質）で、地球のプレート運動で隆起してできた山。土壌にはミネラルが豊富である。

また、自生種（サケバヒヨドリ、ヒヨドリバナ、サワヒヨドリ）を花壇等に植栽し、アサギマダラおいでませ作戦を行っており、10月には数多くのアサギマダラを見ることができるとの説明もあった。

#### ◇他に説明等のあった草花

ウマノアシガタ、カキドオシ、ヒメウズ、ヤブニンジン、コナスビ、キツネノボタン  
マツバウンラン、シマカンギク（アブラギク）、スカンボ、ギンギン、オニタビラコ  
アキカラマツ、キランソウ、モモイロキランソウ、ハルジオン、コオニユリ、オニユリ  
オカトラノオ、アマドコロ、ウバユリ、キンミズヒキ、チョウシュウアザミ、ヤエムグラ  
ナノハナ（セイヨウカラシナ、セイヨウアブラナ）、カタバミ、コウゾリナ  
セイヨウミヤコグサ、ツルニチニチソウ、キョウリグサ

### 【ハマセンダン探訪、本山岬】

講師：嶋田紀和氏、柴田満幸氏（本山会）

ハマセンダンはミカン科の木で幹周りは5.2m、根周りは約12m、樹高約15mで、2013年5月に市の天然記念物に指定された。樹齢は250年前後と見られる。木肌はゾウに似た色・質感をしている。ハマセンダンは雌雄異株だが、確定には至っていない。周囲にはロープを張り、根が傷まないように保護し、見やすいように周りの樹を伐採している。

本山岬は干潮であったため、下の海岸に降りて、くぐり岩などの奇岩を直接観察することができた。くぐり岩は砂岩でできているため、波により浸食され、年々形が変化している。

瀬戸内海には岬が26箇所あり、そのうちのひとつが本山岬。

小野田は元々石炭の町で、本山では江戸時代から昭和30年頃まで石炭が採掘されていたため、今でも、海岸で石炭を見ることができる。海岸でハマダイコンやイワタイゲキも見ることができた。



## 【講座「竜王山及びその周辺の四季、自然などについて」】

講 師：嶋田紀和 氏（本山会）

当初は、PWPを使用して竜王山とその周辺の植物や自然環境について説明がある予定であったが、ハマセンダンや本山岬の観察からきらら交流館に帰った時間が14時40分頃だったので、嶋田さんの話だけになった。

竜王山で観察会を始めて今年で20年目になるので、4月29日の観察会では記念品を出すことにしている。20歳の頃より登山を始めて、山野草の造形的な美しさやそこでしか咲かない花の素晴らしさを感じている。写真を撮っており、記録として保存している。

1999年に自然観察指導員になった。誰でもなれるけど、スキルが重要で、竜王山というフィールドを持っていることも良かった

竜王山のマップ作りや竜王山ウオークも始めた。竜王山の山野草を発信していきたい。

竜王山では看板を設置し、見学の方に優しく注意喚起している。

2000年より本山小学校の児童と一緒にモリアザミの保全活動を行い、アサギマダラおいでませ作戦も実施している。こうした成果から2016年に環境省から自然保護大賞を受賞した。

竜王山は日本でも有数のヒメボタルの自生地で、5月の第4土曜日（今年は5月28日）にヒメボタルの観察会を予定している。

### 3. まとめ・感想

毎年度、アサギマダラの飛来する秋に観察会を開催しているが、今回初めて春の観察会を実施した。49人の参加申込者があり本山会の協力で全員参加としたが、当日は41人の参加となった。

本山岬のくぐり岩などを海岸に降りて観察してもらいたいため、干潮時間を考慮して、午前中に竜王山の観察会を行い、午後、本山岬やハマセンダンの観察を行った。

これまで当センターの環境学習講座の野外観察会に参加経験がなく、今回初めて参加された方が14人もおられたため、身近な竜王山にいろいろな草花があることや、ヒメボタル等の話なども聞いて、感激されていた。

1日を通して講師を務めていただいた本山会の嶋田紀和さんと柴田満幸さんの説明は、始めての方にも理解しやすく親しみやすい内容でとても好評だった。